

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糺2264番地1		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果確定日	令和6年2月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いきいきハウス日吉町」は、認知症高齢者の穏やかな日常生活を支える事業所として地域の皆様と共に歩んできました。皆様のご協力のおかげで開設21周年目を迎えております。コロナ禍が落ち着き、平穏な日常が戻ってくる中で、当事業所の外出行事や家族参加型のイベントの幅も少しずつ拡大出来るようになりました。緑豊かな環境で、ゆっくりとした時間が流れていくように、「一つの家」は笑顔が絶えない時間をスタッフと共に刻んでおります。まだまだ、インフルエンザ等の流行により感染対策が必要ではありますが、スタッフは日々励み、施設運営理念である、「やさしく思いやりのあるよく気がつくスタッフが真心こもったサービスを提供します」の実践に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の運営理念とケア目標の唱和で気を引き締め、合言葉の入居者をいきいきとさせるケアを実践している。系列施設から転居された方々は、言動をそのまま受け入れる支援でその人らしい暮らしぶりとなり、中でも今年目標に「口は禍のもと」と書いた入居者は軽妙な言動で、笑顔になる場づくりを担っている。昨年末の離園者は短時間で無事に発見されたが、離園の経緯をまとめた事故報告書は、対応策の気づきとなっている。定期的に発行しているホーム通信や個別通信は家族の謝辞があるほど好評で、運営推進会議録は玄関やホームページで公表している。職員と入居者との思い遣りのある言葉のキャッチボールが毎日展開する「いきいきハウス日吉町」一家の暮らしぶりは、地域に認知症やその介護を周知相談を受ける拠り所としての役割が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設運営理念とケア目標を掲示し、毎日唱和を行っている。理念に沿った支援ができるようスタッフと管理者間で情報を共有し、ミーティング等で振り返りを行っている。	毎日の運営理念とケア目標の唱和で気を引き締め、合言葉の入居者をいきいきとさせるケアが展開している。職員は入居者と思い遣りのある言葉のキャッチボールができることが嬉しいと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	情勢を踏まえて地域行事自体が中止となっているが、区長や公民館長と常に連携を取り合い、情報の共有が図れている。地域の一員として協力していく意向は常に示している。	現住所に移転して10年が経過し、自治会加入を継続し、地域に認知症やその介護相談に応じることを発信している。民生委員から居室状況を尋ねられるなど、地域の信頼を培っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護相談等、気軽に相談できるよう自治会に向けて情報発信している。地域住民向けの活動は現在も中止を余儀なくされているため、再開の目的が立てば受託する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より対面での運営推進会議を再開し、事業所の状況報告を行っている。構成委員からの意見や要望、地域の状況等の連携が図れ、サービス向上に繋げている。	家族や自治会長などの地域代表、地域包括支援センターなどの参加で定期的に開催し、会議録は玄関やホームページで公表している。運営や入居者の暮らしぶりを報告し、消防訓練やインフルエンザ予防接種に関する質問に応じている。	運営推進会議をさらに活用するために、運営推進会議の案内や会議内容をホーム便りや個別通信に掲載し、意見表出の促しを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター・福祉事務所との連携は密にしており、相互訪問により協力関係を築いている。また、空き情報等の共有も随時行っている。	居室情報や当該入居者の暮らしぶり等の情報を夫々の関係部署に随時提供している。昨年末の離園者は短時間で無事に発見されたが、関係機関に捜索の協力をお願いし、在宅時から登録していたSOSネットワークを活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として原則身体拘束を行わないケアを実施。フィジカル・ロックだけでなくスピーチロック、ドラッグロックへ繋がっていないか十分確認し、身体拘束をしないケアに努めている。	定期的で開催している身体拘束適正化委員会や研修で身体拘束の具体的な行為を周知し、不適切なケアについてミーティングで振り返っている。感情的な口調による「待って」や「じっとして」などは管理者がその都度注意している。離園の経緯をまとめた事故報告書は、対応策の気づきとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や内部研修の実施にて、学ぶ機会を設けている。また、グレーゾーン等の不適切ケアに繋がっていないかや虐待に繋がる環境でないかを委員会やミーティングを活用して振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	入居時に重要事項説明書で成年後見制度に関する問い合わせや相談窓口を説明しているが、制度の活用はない。随時活用を支援するために資料を整備し、研修会で事業や制度の内容やその違いについて周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更や改定が生じた際には速やかに再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、「ご意見箱」を設置し、気軽に投函していただけるようにしている。また来所時等に状況報告を行い、要望や意見を受け、申し送りやミーティング等で共有し、運営に活かしている。	ホームや個別通信にホーム行事やインフルエンザ予防接種、面会時の感染症予防対策について丁寧に説明し、運営に関する意見表出の機会としている。通信は家族の謝辞があるほど好評で、今年度は家族に誕生会や運動会の招待状を出し、3家族が参加している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は電話や面談等により、個別に職員から意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営に反映させられるよう、ミーティングの場を設け、調整を行っている。	意見が言いやすい環境をと、日頃からタイムリーな声かけで個別の相談に応じている。毎月のミーティングではオムツの当て方やヒヤリハットなどを話し合い、会議録の回覧で情報を共有している。購入伺いで、キッチン用品やミキサーなどが購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員各位から意見を聞き、対話を大切にしている。職員個々の努力や実績を適切に評価し、各自のやりがいや向上心につながるよう環境を整備している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず、福祉人材として適切な方であれば経験を問わず採用を積極的に行っている。現職で働く職員に対してもワークライフバランスや家庭の事情を考慮して勤務時間の調整や働き方に配慮した対応を行っている。	高齢者とのコミュニケーションを重視した採用で、夜勤専従を含め20代～60代までの男女の職員が就労している。腰痛など夫々の状況に配慮したシフトで働きやすく、職員が定着している。認知症実践者や基礎研修の参加で人材育成に努め、中には実習の場を提供した介護実習生の入職もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人情報を含むプライバシーや言葉遣い等に関して、ミーティング時に振り返りを行っている。また、内部研修により、人権学習を実施しや啓発活動に取り組んでいる。	入居者だけでなく職員の人権を擁護するために虐待やハラスメント防止方針を整備、市介護サービス協議会主催の虐待防止に関する研修会に参加している。代表者や管理者は日頃から、入居者や家族、来訪者への言葉遣いを事例を通じて指導している。	カスタマーハラスメント対応指針の整備で、さらなる人権教育・啓発活動を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修等の研修受講を積極的に法人から推薦し、キャリアアップの機会を提供している。また、研修に参加出来るよう、勤務シフトの調整や情報提供、受講支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他法人や医療機関との相互訪問により同業者との交流が図れている。また、介護サービス事業所連絡会や市町村の研修に参加し、ネットワークづくりに努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの段階から、不安点や要望等を聞き取り、事業所の様子等を詳細に伝えながら、不安解消に努めている。入居後も心理面のサポートを継続し、会話や仕草の中から要望を汲み取る等、関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安点や要望等を伺い、アセスメントを行っている。入居後は、本人を職員と一緒に支えていくチームという形でコミュニケーションを大切にし、要望等が出しやすい関係作りができるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を伺い、必要としているサービスを見極めている。認知症だけではなく、加療中の方が殆どであるため、その他のサービス導入がスムーズに開始できるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、支援される立場という関係ではなく、可能な限り、洗濯物たたみや新聞切り等の役割を個々で発揮していただき、共存する関係性を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度より、家族参加型のイベント行事を解禁している。誕生会等に、家族を招待し本人と家族の絆を大切にしながら、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を踏まえて、面会は一定のルールを設けているが、家族との外出等については体調に合わせてお願いしている。かかりつけ医への受診も継続して行い、関係性が途切れない支援に努めている。	インフルエンザが流行しているため、面会は居間の窓越しでお願いしている。誕生日に家族との外出を支援したり、家族が持参した以前好物だった焼き芋を調理し、「あきた」と話す入居者に食してもらうなど、関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、食事の席等の配置を考えている。孤立しないように職員が間に入り、円滑な人間関係が構築出来るよう、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて契約終了になった方及びその家族からの相談を受けている。退居時にも、その旨を伝えており、関係性を保持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が難しい場面でも、生活状況や会話の内容から本人の希望や意向を把握していくことに努めている。汲み取った情報は、職員間にて共有し、本人本位に近い形で検討を行っている。	恒例の書き初めには「毎日楽しむ」「健康第一」「えがお」「元気に暮らす」など、個々の目標が掲載されている。寡黙な入居者が鏡に映った自分を弟と思い込み笑顔で話したり、今年目標に「口は禍のもと」と書いた入居者の軽妙な言動を全員で受け止めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を本人及び家族から情報収集し、困難な場合は日常のケアの中で生活歴を掘り起こせるよう、努めている。本人らしい暮らし方に近づけるよう、心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は申し送りやケース記録等で把握し、迅速な情報共有に努めている。状況に応じミーティングを実施。特に体調面の不調を訴えることができない方が多いため、常時観察に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族との関わりを深め、要望の聞き取りや、課題の明確化に努めている。各関係者も含め意見とニーズを照らし合わせながら共有し現状に即した介護計画に努めている。	入居者や家族の意向、職員の気づきやモニタリング結果を介護計画の作成や見直しに繋げている。血圧管理や手引き歩行で「自分で歩きたい」を支援し、系列施設から転居された方々は、言動をそのまま受け入れる支援でいきいきとその人らしい暮らしぶりとなっている。	アセスメントシートに把握した思いや意向を時系列に印字の色を変えて加筆し変化を共有し、日々柔軟に実践しているケアを組み入れた現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では、利用者の気づきの記録、職員と情報共有したい記録を取るように心掛けており、申し送りノート等への記載を行っている。職員間の共有から介護計画の見直し、ケア方法の検討に繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に適した病院受診等、可能な限り家族の協力を得て、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の分類が5類に設定されたが、現在の所は、地域行事は中止となっている。地域に向けてはいつでも協力と参加が出来るよう自治会と連携を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を伺いながら、かかりつけ医を決定している。基本的には入居前に通院していた病院を継続しており、受診支援も柔軟に行っている。状態変化時も同様に適切な医療を受けられるよう、常に支援を行っている。	かかりつけ医受診だけでなく専門医受診も状況に応じて支援している。在宅酸素療法や尿カテーテルを留置している入居者もあり、24時間オンコール可能な訪問看護ステーションと連携し、適切な医療受診に繋げている。訪問歯科による口腔ケアで食がすすみ、全員元気と管理者は話している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、連携看護職員との双方で協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係づくりはできており、必要な情報交換を行っている。時にリモート会議等の実施にて、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を確認し、意向を踏まえながら早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取り方針を説明し、重度化と急変時の対応について、意向を書面にて確認している。重度化の過程で発生する様々な課題は、本人及び家族、医療機関との協議により都度対応を行っている。	重度化や看取り介護について意向確認書を取り交わしているが、医療機関搬送の希望が多い。食事中に意識が低下し救急搬送した入居者は、搬送先で加齢による老衰で逝去され、家族からはこれまでの介護に謝辞があった。管理者は今後看取りの希望があれば、整備した指針に沿って支援したいと話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修やミーティング等を通じて、AEDの使用法や観察のポイントを押さえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施しており、風水害や地震等の訓練は机上訓練を別途実施。近隣住民への声掛けや関係施設の職員の協力を得ている。災害発生時には区長へ連絡が行くシステムを構築しており、マニュアルを活用して対応出来るようにしている。	近隣の系列施設と合同で年2回実施している消防訓練では、ADLが低下した入居者の搬送が課題となった。災害発生時は避難した入居者の見守りなど、自治会との協力体制を構築している。BCPを策定し、開所場所の土砂災害対策を運営推進会議の議題にあげ、市に対応策を尋ねている。	災害時は近隣の避難者の受け入れが予想されるため、策定されたBCPの研修やシミュレーションで、BCPの更新を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも敬う気持ちを忘れないよう心がけ、言葉遣いや自尊心を傷つけないケアに注意を払っている。また、利用者同士でもプライバシーを損ねるようなトラブルに発展しないよう、適切に対応している。	年間研修計画に接遇を組み入れ、身だしなみに配慮し、慣れすぎず丁寧すぎない言葉遣いを実践している。荒い言葉遣いの背後にある温かな気持ちを職員が代弁するなど、入居者間の仲介に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係が築けるよう努めている。利用者の要望や希望から自己決定できるよう支援し、表出が困難な利用者には表情や行動から思いを察し、希望に添えるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、基本となる生活習慣を守りながら、利用者個々人のペースを尊重した支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類や着用する洋服選びのお手伝いをしたり、アドバイスを行っている。関係施設合同の美容イベントで美容師を招き、その人らしいお洒落が楽しめる時間を提供している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて、利用者と職員が一緒に準備や片付けを実施している。食事イベントは定期的実施しており、豪華メニューを提供し、利用者全員の楽しみとなっている。	調理をする音や美味しそうな匂い漂う厨房前の食卓につき、職員の介助や声かけ、見守りで夫々のペースで完食する入居者が多い。買い物で貯めたポイントを活用した豪華な行事食は恒例の楽しみとなり、毎月のパン作りも好評で、入居者の「花は食べられん」の名言のままに、植木鉢で冬野菜を栽培している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあたっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施。義歯の洗浄も細目に行ない、可能な限り自己にてブラッシングして載っている。状況に応じて訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋がっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導介助を主体にオムツを使用しないケアを実行している。殆どの方がトイレでの排泄を継続できており、布パンツ着用の方もおられ、自立支援に向けた支援が行えている。	前止めオムツの使用もあるが、昼夜を問わず個々の排泄パターンに沿って、トイレでの排泄を支援している。週1回訪問看護で留意している尿カテーテルを管理したり、血圧をコントロールするために夜間尿取りパットの使用で安眠を確保する入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、食物繊維を多く含むものや乳酸菌飲料の提供等の工夫をし、腹部マッサージや適度な運動への働きかけを行っている。緩下剤に頼らず、主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の予定や健康状態に合わせて、入浴日は事業所側で決定しているが、利用者個人のペースでゆっくりと入浴を行える環境を整えている。入浴中はリラクゼーションが図れるよう、音楽を流したり入浴剤の使用を行っている。	週3回を目途に入浴を支援している。車イスの入居者も入浴剤を入れた浴槽に浸かっている。家族が持参した好みのシャンプーを使用する入居者もある。「寒い」には「熱めにしている」などと声をかけ、入浴を促している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室を自由に過ごせる環境にしており、個々に合わせて休息する時間を設けている。安眠確保の観点から照度や室温、音への配慮も行い、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬説明書をファイリングし、全職員が把握出来るようにしている。変更があった場合にはその都度、申し送りを徹底して共有し、経過観察を行っている。服用後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた日常生活の役割があり、職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。また嗜好品を切らさない声かけ、購入する支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家庭菜園の手入れや毎日の散歩等、職員と一緒に楽しみが継続できるよう支援を行っている。屋外での花見や茶話会、外出行事では感染対策を継続しながらではあるが、道の駅ドライブ・あじさい見学等、外出行事の企画を継続して実施している。	年間行事計画でドライブや季節の花見に出かけ、受診後にドライブや買い物をしている。園庭の散歩は恒例となり、ホーム通信に掲載された大運動会やパン作り、冬野菜植えの写真から、いきいきとした暮らしぶりが伺える。今後は感染状況を見ながら、少しずつ外出の機会を増やす予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者はいないが、金銭を所持されることで、安心される方には、家族理解の上、小額の金銭を所持していただくようにしている。物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手からお金を支払う行為を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から手紙や電話のやり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆、代電含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節感に合わせた装飾や利用者協働で作成した貼絵を掲示しており、各々が好きな場所でゆっくり過ごせるようにソファやマッサージチェアを設置している。音や光、室温等は常に職員が気に掛けその都度快適に過ごせるように配慮している。	玄関や居間には謹賀新年のタペストリーや門松が飾られ、壁には行事の折の写真や貼り絵、書初めが掲示されている。居間の広い掃き出しの窓は面会の場となり、居間はラジオ体操や口腔体操、リハビリ体操の掛け声が上り、机を並び替えて洗濯物畳みの場となり、其々の定位置で寛く入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子等を配置して、思い思いに過ごせる場所に配慮を行っている。気の合った利用者同士の談話やゆとりを持って過ごせる時間を大切に、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある馴染みの家具や衣類を持ち込んで戴けるようにしている。本人の要望を聴きながら写真や調度品等を配置し、時には気分転換の為、模様替えを一緒に行うこともある。本人が居心地よく過ごせるよう支援を行っている。	表札の掲示はないが居室の間違いはなく、居室の壁には今年目標が掲示され、家族の写真やお祝い色紙が飾られている。机や椅子、テレビ、タンスなどが持ち込まれ、洋服かけに3着のコートが整然と掛けられるなど、夫々に居心地良い設えとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は車椅子・歩行器等、動線のスペースが確保されており、廊下には手摺が配置されている。利用者の方々の能力を理解し、安全かつ個々に合わせた使用を行っている。		